

臨床薬学 3

責 任 者・コーディネーター		臨床薬学講座臨床薬剤学分野 工藤 賢三 教授 臨床薬学講座臨床薬剤学分野 朝賀 純一 准教授	
担当講座・学科(分野)		臨床薬学講座（臨床薬剤学分野、地域医療薬学分野、情報薬科学分野）	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 20 時間（10 コマ）
期間	後期		
単位数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

臨床薬学 3 では、実際に行われている薬剤師実務全般についての基本的知識、技能、態度を修得、理解することで、時代が求める医療を実践できる薬剤師としての素養を身につける。特に、医療機関や地域で多職種が連携・協力するチーム医療に参画するために、チーム医療における薬剤師の役割と意義を理解する。また、代表的な疾患を通して、収集した患者情報と医薬品情報を基に、チーム医療で求められる個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる応用的思考能力の基礎と薬学的管理に必要な知識を修得する。

臨床薬学 3 は、実務実習の事前学修科目である。

・教育成果（アウトカム）

チーム医療や地域医療を実践できる薬剤師として必要な基本的な知識、技能、態度について学修し、また、代表的疾患を通して患者に応じた薬物療法およびその薬学的管理と必要な知識について学修することで、チーム医療における薬剤師の役割を理解し、薬物療法に主体的に関与する基礎が修得できる。
(ディプロマポリシー：1, 2, 4, 5, 6, 8, 9)

・到達目標（SB0）

1. 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。(986)
2. 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(987)
3. 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。(988)
4. 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(989)
5. 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。(999)
6. 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。(1000)
7. 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。(1013)
8. 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(1014)
9. 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で記録できる。(1015)
10. チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。(1026)
11. 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。(1027)

12. 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。（1028）
13. 妊婦・授乳婦の薬物療法に必要な知識と薬剤師の役割を説明できる。（☆）
14. 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。（1035）
15. 地域医療の現状について説明できる。（☆）
16. 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。（1039）
17. 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。（1040）
18. 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。（1041）

・ 講義日程

（矢）西 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
8/18	月	3	臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	「チーム医療と薬剤師」 1. チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/18	月	4	情報薬科学分野	氏家 悠貴 助教	「チーム医療（１）：がん」 1. がんの薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/19	火	3	臨床薬剤学分野	朝賀 純一 准教授	「チーム医療（２）：糖尿病、妊婦・授乳婦の薬物療法」 1. 糖尿病の薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 2. 妊婦・授乳婦の薬物療法における薬学的管理と必要な知識を説明できる（☆）。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。

					事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/19	火	4	地域医療薬学分野	松浦 誠 特任教授	「チーム医療（3）：高血圧、心疾患」 1. 高血圧の薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 2. 心疾患の薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/20	水	3	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授	「チーム医療（4）：脳血管障害、精神・神経疾患」 1. 脳血管障害の薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 2. 精神・神経疾患の薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/20	水	4	情報薬科学分野	西谷 直之 教授	「チーム医療（5）：免疫・アレルギー疾患、感染症」 1. 免疫・アレルギー疾患の薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 2. 感染症の薬物療法における薬学的管理と必要な知識について説明できる。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/21	木	3	臨床薬剤学分野	朝賀 純一 准教授	「医療チーム（1）：栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム」

					1. 栄養サポートチームにおける必要な知識と薬剤師の役割について説明できる。 2. 褥瘡対策チームにおける必要な知識と薬剤師の役割について説明できる。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/25	月	3	臨床薬剤学分野	高橋 宏彰 講師	「医療チーム（2）：感染制御チーム、緩和ケアチーム」 1. 感染制御チームにおける必要な知識と薬剤師の役割について説明できる。 2. 緩和ケアチームにおける必要な知識と薬剤師の役割について説明できる。 【双方向授業】 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/25	月	4	臨床薬剤学分野	佐藤 一 非常勤講師	「チーム医療と医師の視点による薬剤師の役割」 1. チーム医療における薬剤師の役割について説明できる。 2. 地域医療の現状について説明できる（☆）。 事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
8/27	水	1	臨床薬剤学分野	小原 道子 非常勤講師	「地域におけるチーム医療」と「在宅医療・介護への参画」 1. 地域におけるチーム医療について説明できる。 2. 地域医療における薬剤師の役割を説明できる。 3. 在宅医療における薬剤師の役割を説明できる。

					事前学修：講義内容を確認し、予め教科書や参考書等で関連する項目を予習しておく。 事後学修：授業内容の要点・課題を確認し、振り返りを行う。必要に応じて授業内容をまとめる。
--	--	--	--	--	--

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ.チーム医療および地域の保健・医療・福祉への参画	日本薬学会 他 編	東京化学同人	2018
参	スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ.臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤	日本薬学会 他 編	東京化学同人	2017
参	スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ.薬物療法の実践	日本薬学会 他 編	東京化学同人	2018
参	治療薬マニュアル 2024	北原 光夫、上野 文昭、越前宏俊 編集	医学書院	2024
参	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本 [知識・態度] 第3版	上村 直樹、平井 みどり 監修	羊土社	2017
参	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本 [技能] 第3版	上村 直樹、平井 みどり 監修	羊土社	2017

・成績評価方法

総括評価：定期試験（MCQ100%）で評価する。 形成的評価：講義（第1回～第8回）時には、小テスト（記述式およびMCQ）を行い、理解度を確認しフィードバックする。
--

・ 特記事項 ・ その他

〈事前学修・事後学修のポイント〉

事前学修としては、講義内容を確認し、内容に関して関連する項目を教科書や参考書等を読んでまとめること。事後学修としては、予習内容、授業内容の要点・課題について理解できるようにしておくこと。また、授業内容を必要に応じてまとめておくこと。これらの学習には、各コマに対して、事前に 50 分、事後に 40 分程度を要する。更に、定期試験前には 10 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

講義は教科書及び参考書を用いて実施する。必要に応じてスライドを使用するが、原則として講義スライドのハンドアウトの配布は行わないこととする。補足資料は必要に応じて適宜配布する。

第 1 回～第 8 回の講義中に、講義内容に関する小テストを実施する。小テストについては、講義中に必要に応じて解説する。また、小テストには、教員へのレスポンスの記載欄があり、授業内容の分からなかったこと、要望等を記載することが出来る。

定期試験等に対するフィードバックは、必要に応じて掲示もしくは moodle にて行う。

当該科目に関連する実務経験の有無 「有」

大学病院等における薬剤師の実務経験を有する教員及び医師（病院長）の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。また、実務経験を有する教員による講義により、広い視野に立った見方や考え方を学ぶ。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	コンピューター	1	講義資料の閲覧